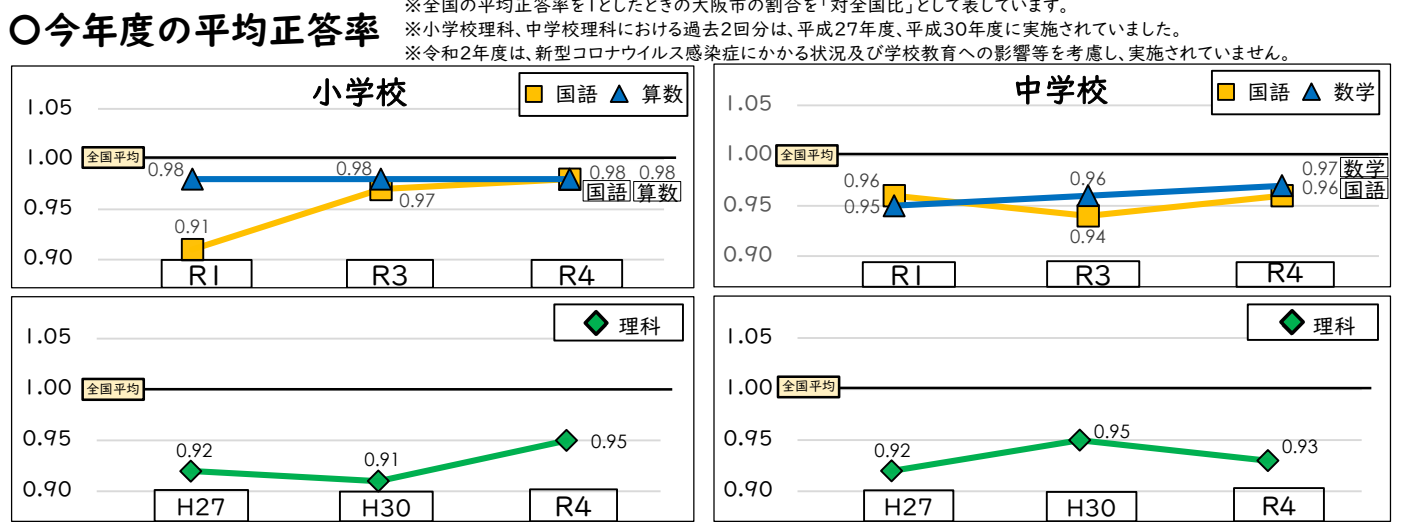


令和4年度

全国学力・学習状況調査の結果について

「令和4年度全国学力・学習状況調査」は、令和4年4月19日（火）に、小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年の全児童、中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年の全生徒を対象として、国語、算数・数学、理科の3科目で「教科に関する調査」「質問紙調査」が行われました。

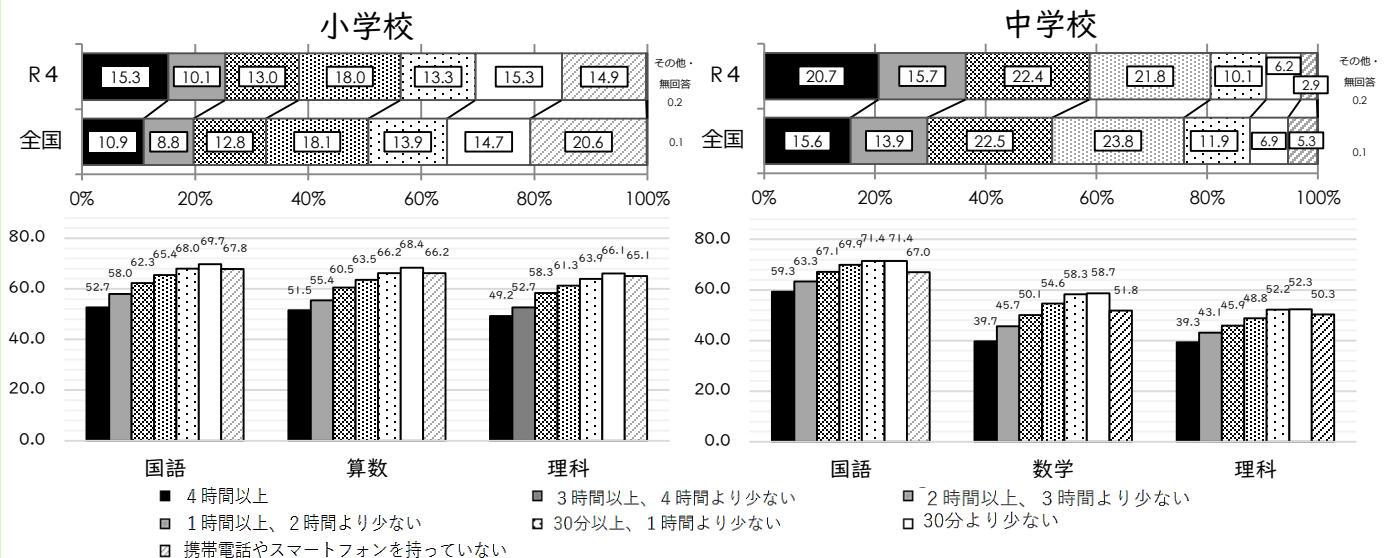
◆教科に関する調査の結果◆



◆質問紙調査の結果◆

【教科の平均正答率と質問紙調査のクロス集計】※令和4年度からの新規質問項目です。

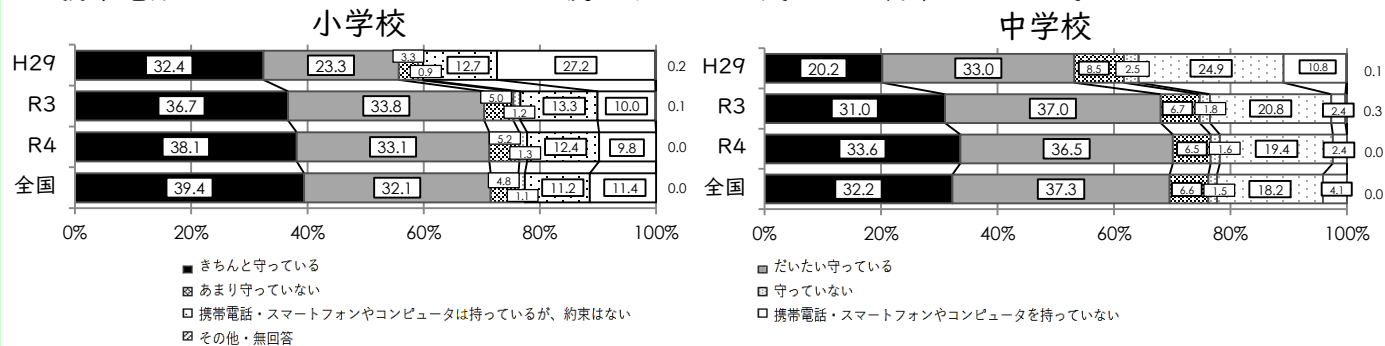
○普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）



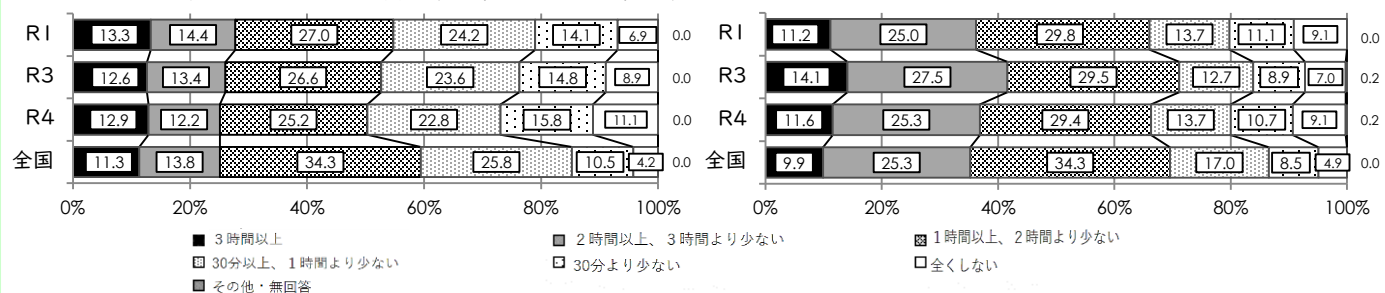
「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか」という質問に対して、小中学校ともに視聴時間が短いほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

【基本的生活習慣等に関する質問紙調査】※当該質問項目の調査があった直近3か年を比較しています。

○携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか



○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



・「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して、肯定的に回答をした児童生徒の割合は、平成29年度と比較すると、小中学校ともに増加しています。

・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して、昨年度と比較すると、小中学校ともに勉強時間は減少傾向にあります。

◆ご家庭でのご協力をお願いします◆

本市では、約7割の児童生徒が携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていると肯定的に回答をしています。しかしながら、1日当たりの動画視聴の時間は小中学校ともに長い傾向にあり、一方で平日における学校の授業時間以外の勉強時間について、小学校では約3割、中学校では約2割の児童生徒が「30分未満」となっています。携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をしている時間と教科の平均正答率の間には関係があります。基礎的・基本的な知識・技能等を確実に身に付けるためには、学習習慣の定着が重要です。携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使用時間、ご家庭での過ごし方等について、お子様と今一度話し合ってみてください。

